

高峰登山報告書

[アジア地区=標高5000m以上、その他の地区=6000m以上]

国名	パキスタン	山名	K2	標高	8,611m	地域名	カラコルム
隊名	東海大学K2登山隊2006			派遣母体	東海大学山岳部(東海大学ヒマラヤ遠征委員会)		

今回の登山隊の区分について下記の中から該当するものを○で囲んでください。

<input type="radio"/> 組織内公募登山	<input type="radio"/> 一般公募登山	<input type="radio"/> 国内商業登山	<input type="radio"/> 外国商業登山
連絡先	氏名 出利葉義次(山岳部監督) □-マ字 Deriha Yoshitsugu TEL 0463-58-1211 FAX 0463-50-2061 e-mail deriha@tsc.u-tokai.ac.jp 住所 〒259-1292 神奈川県平塚市北金目1117 東海大学湘南校舎		

登山内容	
登山期間	2006年6月5日～8月25日
ルート名	南南東リブ
*キャンプ配置と設営日(隊員が初めて宿泊した日を設営日としてください。) 設営場所(※日の後に**氷河右岸とか○△尾根上など、平易に記して下さい。J)	各隊によって名称が異なりますので低い順から訂正してください。)
	BC (5,150) m 6月 20日
	CO (5,700) m 6月 26日
	C1 (6,400) m 7月 3日
	C2 (7,100) m 7月 20日
	C3 (7,900) m 7月 31日

*登山の成否: <input checked="" type="radio"/> 成功 <input type="radio"/> 断念 最高到達点 m地点 8月 1日 16時 50分頃到達	
*酸素	持参しない <input type="radio"/> 持参した 医療用のみ <input type="radio"/> 睡眠用 <input type="radio"/> 行動用
	使用実績 睡眠時のみ C3で使用 行動中 8000m以上 から使用 医療用使用
*固定ロープ	持参しない (3,500 m持参した。) 使用実績 [3,500m]

*原因 [表層雪崩 懸垂雪崩 その他] [高山病 転滑落 <input type="radio"/> その他 急病 行方不明]	
*事故発生日	7月 29日 6時 30分頃 ※事故発生場所 [南南東リブ5,500m付近]
*事故発生高度	*事故発生日と死亡日が異なる場合には記入してください。
*当該氏名	蔵元 学土

*事故の概要

頂上アタックでC1に向かう途中、激しい腹痛を訴え下山する旨連絡があった。自力で取り付きまで下山した後、迎いの医師・隊員が付き添いBCに下山した。診察の結果、急性虫垂炎の疑いがあると診断され、ブロードピークBCに担架で搬送、ヘリでスカルドの病院に収容された。

隊の構成（都市滞在だけの方は除いてください。氏名のふりがなはローマ字でお願いします。）

氏名	フリガナ	性別	生年月日	歳	登頂日	電話番号
1 隊長 出利葉義次	Deriha Yoshitsugu	男	19 58 年 3 月 29 日	48	月 日	
2 副隊長・医師 笹尾 玄	Sasao Gen	男	19 72 年 6 月 16 日	34	月 日	
3 隊員 片岡 洋介	Kataoka Yousuke	男	19 62 年 8 月 25 日	43	月 日	
4 隊員 蔵元 学士	Kuramoto Shoudo	男	19 78 年 9 月 30 日	27	月 日	
5 隊員 小松 由佳	Komatsu Yuka	女	19 82 年 9 月 22 日	23	8 月 1 日	
6 隊員 青木 達哉	Aoki Tatsuya	男	19 84 年 9 月 24 日	21	8 月 1 日	
7 医師 小林 利毅	Kobayashi Toshiki	男	19 66 年 2 月 24 日	40	月 日	
8 看護師 小林 幸子	Kobayashi yukiko	女	19 66 年 9 月 23 日	39	月 日	
9 支援隊員 平出 和也	Hiraide Kazuya	男	19 79 年 5 月 25 日	27	月 日	
10 支援隊員 野村 智志	Nomura Satoshi	男	19 84 年 11 月 14 日	22	月 日	
11 支援隊員 岡野 巧	Okano Takumi	男	19 83 年 7 月 14 日	21	月 日	
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						

高所ポーター（登攀活動に従事した者のみ記入してください。）ガイド=G、サーター=S

氏名	年齢	登頂日	年齢	登頂日
1 ファル・ファド		月 日	5	月 日
2 ファズ・アリ		月 日	6	月 日
3		月 日	7	月 日
4		月 日	8	月 日

連絡官	ハビブ・ジャミ	(歳)	通訳	アリムサ	(歳)
BC要員	コック	アブドゥ	キッチン	サビール、フィダーリ	メール
報告書	「K2 2006」2007年4月発行		判形	判	頁
その他発表した記録	山と溪谷10月号、岳人11月号				

登山概況

6月5日、先発隊3名がイスラマバードに出発、9日の本隊到着を待ち、10日夜バスで23時間かけスカルドに向かった。スカルドでキャラバン出発準備を整え、13日その出発地であるアスコールにジープで到着した。翌14日、二百数十名のポーターを雇いキャラバンを開始、長大なバルトロ氷河を7日間歩き続け、20日ゴトウィンオースティン氷河のBC予定地に到着した。BCの標高は5,150m、K2を正面に仰ぎ見る氷河上のモレーンに設営された。21日南南東リブ取付の偵察を行い、22日から本格的なルート工作と荷上げを開始。急峻な氷雪壁、岩稜からなる南南東リブは、雪崩や落石の危険度が極めて高く、それを避けながらルートを延ばした。7月3日岩稜上のテラスにC1(6,400m)を設営、20日、急峻な雪稜を削ってC1(7,100m)を設営した。さらに、想像を絶する巨大な落石の恐怖に耐えながら、希薄な酸素下での苦しい登攀を続けた。24日午後7時30分、南東稜ショルダー、アタックキャンプとなるC3(7,900m)予定地に到達、夜間苦闘の末、午後10時過ぎ第2キャンプに帰幕した。29日アタック隊の蔵元、小松、青木の隊員3名がBCを出発、3時間後蔵元隊員が急性虫垂炎でアタックを断念、ヘリコプターでスカルドの病院へ搬送された。小松、青木の2名でアタックを続行、29日C1、30日C2と登り続け、31日C3(アタックキャンプ)入りした。8月1日午前2時30分、2名のアタック隊は1人2本の酸素ボンベを背負い、毎分2リットルの酸素を吸入しながら、頂上に向けアタックを開始した。途中、セラック崩壊で雪崩の危険があるボトルネック、さらに氷河まで落差3,500mの氷のトラバースを突破、急峻な氷雪壁を登攀して頂稜に達し、苦闘14時間20分、K2の登頂に成功した。小松由佳は日本人女性初登頂を果たし、青木達哉は世界最年少登頂者となった。急峻で困難な南南東リブから女性が登頂したのは世界初となる。しかも、女性自らトップに立ってルートを拓き、アタック隊のリーダーとして登頂した女性は、K2登山史上初である。登山隊は13日にベースキャンプを撤収、帰路キャラバンはゴンドコロ峠(5,670m)を越え、16日フーシェに下山した。スカルドにて返送隊荷を整理した後、崖崩れで道路が寸断され、その復旧を待ちながら18日に移動を開始。途中、足止めされながらも22日イスラマバードに到着。24日夜、イスラマバードを出発、25日全員無事に帰国した。

